

豊かな四国

四国経済連合会副会長(四国旅客鉄道㈱代表取締役社長)

松田 清宏



あっという間の20年だった気がしています。振り返ると初めて四国に着任した日は、雪でした。先輩からの伝承ごとに「トラバーサーは雪に弱い」があり、多度津工場長着任の挨拶より、その朝トラバーサーが動くかどうかを心配しながら出勤したことも、懐かしく思い出します。そう言えば、いまでこそJR四国の特急は振り子車が当たり前となりましたが、試作車TSEの試験も雪の四国山地でした。純白の世界で夜ごと思い切りその性能を発揮してカーブと坂道を駆け抜けていました。それから、渇水あり、地震あり、大水あり…。しかし、豊かな四国を満喫してきました。休日には大型バイクを楽しんでいますが、これなどは四国ならではの趣味と、空気のきれいな豊かな四国に感謝しています。そして、長くこの豊かさを残していきたいと願っています。

しかし、気がかりなこともあります。例の高速道路1,000円化とか、無料化です。この美しい四国をいつまでもと思うとき、温室効果ガスがいいわけがありません。さてこの施策、低炭素社会実現に寄与するでしょうか。大いに疑問です。かつて、水質汚濁が問題となりました。排水に対する規制が強化された結果、現在では話題に上ることも減多になりました。とりわけ企業の努力は目を見張るモノがありました。当然です。規制違反をすると退場を命じられるから、各社とも必死になって排出水をきれいにする努力をしました。最後に残ったのが、生活排水です。同じ轍を温室効果ガスで踏みそうに

思えてなりません。企業はその存立をかけて対策を実行するでしょう。しかし、個人ベースとなると退場処分がありません！ いかにもハイブリッド車でもガソリンを燃やしCO₂を出しています！（完全電気自動車化できれば別ですが…）豊かな四国を後世に伝えていくために、上手に「道具」を使い分けることを、みんなで考えしっかり実行していく時代と思います。勿論、費用（負担）と便益（受益）のバランスをよくとって。

20年を豊かな四国で暮らし、近年森の中に終の棲家を構えました。小さな菜園で無農薬・有機肥料で野菜を楽しんでいます。虫と自分たちと共生（競争？）しながらの収穫です。グリーンボールでは、「虫の食べる場所と人の食べる場所が違う！」と感激しました。スイカもカボチャも、間引かずにそのままに任せています。形は悪いですが美味しい果実がたくさんできます。今度、太陽光発電を取り入れることにしました。この補助金等の施策はなかなか理にかなったモノと評価しています。

豊かな自然とやさしくつきあっていく。そのために自分（達）ができることをしっかりやっていく。こういう生活（活動）を目指していますが、豊かな四国ならではの感謝しています。

脚注 トラバーサー
車両を横（枕木方向）に移動させる機械
TSE
2000系特急気動車の試作車